

庁議の概要

開催日 平成27年6月8日（月）

◎項 目

1 各部署等の今週の動きについて【各部署等】

◎内 容

1 各部署等の今週の動きについて【各部署等】

総務部が取りまとめた各部署等の今週の動きに関する資料を配付の上、各部署による概要説明及び協議が行われた。

<主な協議の概要>

○ 人口動態統計月報の概数について

(健康政策部)

6/5 に人口動態統計月報の概数が厚生労働省から公表されたので高知県分について説明する。

- ・乳児死亡は、14人から12人に2人減であるが、若干全国を上回って推移。要因は救命困難な早産未熟児と先天異常であり、この早産未熟児をいかに防ぐかという対策をずっとやってきている。
- ・周産期死亡数は26が15、率は4.9から3.0とかなり改善が見られ、対策が一定効果を上げてきていると思う。引き続き子宮頸管の長さを測ったり、膣分泌物の細菌検査により、1,000グラム未満の出生を防いでいく。
- ・全世代を通じての死亡数と死亡率について、死亡の原因はがん、心疾患、肺炎で、全国と同じ順番。死亡率はがんは9位のまま、心疾患が2位、肺炎が1位となっている。この数字は年齢調整しておらず、年齢が高くなれば当然亡くなる率も高くなることから問題視する部分ではないが、年齢調整した後どうなるかが問題。

(地域福祉部)

- ・出生数が251人減、婚姻数も141組減と、人口が自然減になった2000年以降、ずっと減ってきている。今回、合計特殊出生率が0.02ポイント下がった一つの要因としてこの婚姻数と出生数の減少がある。
- ・年齢別の母親の出生数は、25歳～29歳の162人減と、本県の場合は特に20歳代後半の出生数が減っており、合計特殊出生率の減少幅が非常に大きい。一方で30歳代の合計特殊出生率は、全国、本県ともに伸びている。いかに20歳代の合計特殊出生率を下げないようにしていくか、未婚化・晩婚化・晩産化への対策を一層強化していく必要がある。
- ・自殺については近年減少傾向にあり、今回も前年に比べ1人減少、自殺死亡率では全国17位が8位と、減少傾向に変わりない。引き続き中山間地域を中心に自殺対策の強化を図っていきたい。

(知事)

出生率についてよく分析を。数字としては分かるが、その数字の背景はどうなんだろうと。力を入れているが下がっているのだから、重く受け止めた方がいい。

○ 高知城歴史博物館について

(文化生活部)

先日の法制審議会でも話したとおり、高知城歴史博物館の設置及び管理に関する条例議案を提出するが、これからは中身を詰めていく必要がある。

担当も増やし、効果的な広報活動を検討していくが、28年度末に開館するため、明治維新150年の企画展をどのようにするか。この館だけではなく「こうちミュージアムネットワーク」と検討を始め、大きな企画に盛り上げていけたらと考えている。

(知事)

明治維新150年の企画展等に関するこうちミュージアムネットワークとの意見交換は大変素晴らしいと思うのでぜひ。

(文化生活部)

(その時期に)龍馬記念館の休館もある。観光振興部とも話し、全体で考えていくよう進めていく。

(知事)

ぜひ観光とコラボしてもらいたい。やっていただいているが、ぜひ願います。観光的にもものすごく大きいと思うので。

○ 「高知家エクストリームトリップ」について

(観光振興部)

先週水曜日、知事も上京し「高知家エクストリームトリップ」の立ち上げのキックオフをしたが、特設サイトのアクセスが4日間で約2万3,000アクセス、1日平均5,000オーバーと、まずまずのスタートを切れている。

ブロガーズフェスのために、6、7日にブロガーの方々に高知においでいただき、1泊2日でそれぞれ各コースを回っていただいた。この体験については6月下旬にホームページで一斉に公表し、そこでも盛り上げていきたいと考えている。